

## 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3年計画の 1年度目)

### 1. 研究課題

(和文) グローバル化する思想・宗教の重層的接触と人文学の可能性

(英文) The Multilayered Contacts among Globalizing Intellectual Thought and Religions with regard to the Possibility of the Humanities

### 2. 研究代表者

(氏名) 奥山直司

### 3. 研究期間

平成22年 7月 から 平成 25年 3月 まで

### 4. 研究目的 (400字程度)

グローバル化が進行する現代社会において、思想や宗教の流通と消費にはどのような特徴があるのか。本研究は、この問題を複数文化の重層的接触という観点で捉え、現代のみならず、過去150年程度のスパンの中でこれを分析・考察することを目的とする。そのための柱として、宗教と進化論(ダーウィニズム)をテーマに据え、それらの伝播の諸相を人文学の諸分野にわたって検討する。このうち宗教については、京都大学人文科学研究所人文学国際研究センターの基幹プロジェクトとして進められてきた「複数文化接触領域(コンタクト・ゾーン)の人文学」における問題意識を継承しつつ、仏教、キリスト教、イスラーム教等の各地への伝播過程や変容過程を複数文化の接触として捉え、論じてゆく。また進化論については、これを近代思想の一つと見なし、アジア各地への伝播を伝統社会と近代思想との接触の事例と位置付けて、専ら人文学的見地から進化論と宗教の関係、進化論の社会・文化への影響などについて検討を加える。

### 5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

本年度は研究会を2回開催し、海外調査を1回(1名)行い、併せて関係資料を収集した。第1回研究会では問題意識を共有するための趣旨説明とこの研究プロジェクト全体に関する意見交換が行われ、また各班員が自己紹介を兼ねてそれぞれの関心領域と研究テーマについて説明した。第2回研究会は、現代インド地域研究京都大学拠点研究グループとの共同開催の形を取り、特にインドの伝統医療のグローバル化の問題について発表と質疑応答・意見交換が行われた。海外出張はスリランカ西南部における調査で、植民地時代のセイロン仏教徒と日本仏教徒との交流をテーマに実施された。また関係資料の収集は、近代日本仏教の海外開教史とアメリカ仏教の形成と展開に関する基礎資料を中心に行われた。

## 6. 研究成果の概要（400字程度）

本研究は、宗教及び進化論の伝播というテーマを共通の場として各分野の専門家が自由に意見を交換し合うことを通じて、思想・宗教のグローバル化を、複数文化の接触という視点からとらえ直すことを目指している。また本研究とそれに伴う情報の蓄積と公開が関連諸分野の相互交流を刺激すること、さらに本研究の成果が現代社会において喫緊の課題とされる異文化理解や他者との共存の在り方を考える一助となることも期待できる。本年度は初年度であることもあり、これらの試みは緒についたばかりであるが、第2回研究会を現代インド地域研究京都大学拠点研究グループと共同開催するなど研究交流の場作りは確実に進んでいる。またスリランカの調査では植民地時代のセイロン仏教徒と日本仏教徒との交流に関わる多くの新資料が発掘された。この結果は次年度における研究成果の刊行、あるいはホームページを通じた発信等に活かされる予定である。また近代日本仏教の海外開教史とアメリカ仏教の形成と展開に関連する基礎資料の収集によって研究体制の整備が進んだ。

## 7. 共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）